

質問

センターの外装・内装は好ましい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	46(79%)	12(21%)	0(0%)
B	32(97%)	0(0%)	0(0%)
C	42(82%)	9(18%)	0(0%)
全体	120(85%)	21(15%)	0(0%)

n=142

いずれのセンターでも、その外装や内装が好ましくないという利用者はみられなかった。どのセンターも子どもや親にとって好感の持たれる施設の様である。

(5) 衛生面について

質問

センターは衛生的で清潔である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	46(79%)	12(21%)	0(0%)
B	33(100%)	0(0%)	0(0%)
C	35(69%)	16(31%)	0(0%)
全体	114(80%)	28(20%)	0(0%)

n=142

センターの衛生面については、Bセンターが清潔であるという回答者が100パーセントであったのに対し、他のセンターは、7—8割と大きく差が見られた。具体的な衛生面での指摘は見られなかったものの、本データを基にして、衛生面での再点検と改善とが望まれる。

(6) 自然環境について

質問

センターでは自然とのふれあいに気が配られている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	38(66%)	20(34%)	0(0%)
B	18(55%)	13(39%)	2(6%)
C	19(37%)	27(53%)	5(10%)
全体	75(53%)	60(42%)	7(5%)

n=142

センターでの自然とのふれあいについては、全体的にみて、それほど重視されているサービス内容ではないようである。事実、センターではそれ専用の部屋が当てられていて、主に屋内での活動が主となっている。どの園でも、自然環境には近い場所に立地しているため、自然とのふれあいが可能ではあるが、子どもの安全や、親同士の会話などには、屋内が望ましいのかもしれない。しかし、活動の中で、落ち葉やどんぐりを使った製作なども盛り込まれていることから、一概に自然とのふれあいに気が配られていないわけではないようである。

(7)子どもの活動スペースについて

質問

子どもの活動スペースは使いやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	38(66%)	20(34%)	0(0%)
B	27(82%)	6(18%)	0(0%)
C	29(57%)	21(41%)	1(2%)
全体	94(66%)	47(33%)	1(1%)

n=142

子どもの活動スペースについては、Bセンターが82パーセントなのを除き、「はい」と回答した割合はそれほど高くなかった。つまり、これは、子どもの活動スペースがそれほど十分ではないと利用者が感じていることを示唆している。これも、最大受け入れ人数でいつも活動していることに起因するのであろう。

(8)親の休憩スペースについて

質問

親の休憩スペースは使いやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	28(48%)	27(47%)	3(5%)
B	24(73%)	9(27%)	0(0%)
C	25(49%)	25(49%)	1(2%)
全体	77(54%)	61(43%)	4(3%)

n=142

親の休憩スペースについても、Bセンターを除き、「はい」と回答した利用者は5割に満たなかった。実際、専用の授乳スペースや親同士が落ち着いて語り合えるような特別なスペースは3センターともない。東京都の武蔵野市にある「0123吉祥寺」という支援センターを視察したが、そこでは子どもの活動スペースを重視するのと同じぐらい、親の休憩スペース作りにも力を入れており、子どもが遊ぶ姿を見つつ、親同士が団欒できるような机いすや自動コーヒーマーカー(有料)などが設置されていた。また、不用品のリサイクル情報などを自由に掲示できる掲示板も用意されていた。子育て支援は、親支援でもあり、このような環境面での配慮もこれからは必要となるだろう。

(9)トイレなどについて

質問

トイレ、授乳／おむつ交換コーナーは使いやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	38(66%)	19(33%)	1(2%)
B	16(48%)	14(42%)	3(9%)
C	22(43%)	24(47%)	5(10%)
全体	76(54%)	57(40%)	9(6%)

n=142

トイレ、授乳／おむつ交換コーナーは使いやすいかという設問に対しては、「はい」と回答する利用者は全体で5割程度と低かった。Aセンターが若干他のセンターよりも「はい」という回答が多かったのは、支援センターの部屋に専用のトイレがあること、また、大人用のトイレには子どもと一緒に入れるようにシートが付いていることが挙げられるのであろう。東京都江東区にある支援センター「みずべ」では、授乳専用の部屋が用意されていた。東広島市の支援センターでは、このような環境面での改善点が指摘できよう。

(10)構内へのアクセスについて

質問

ベビーカーで入構しやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	25(43%)	32(55%)	1(2%)
B	21(64%)	12(36%)	0(0%)
C	29(57%)	20(39%)	2(4%)
全体	75(53%)	64(45%)	3(2%)

n=142

ベビーカーで入構しやすいかをたずねたところ、「どちらでもない」とする回答が多く見られた。これは、特に年齢が低い子どもが支援センターを利用する上で重要となる点であるが、どちらでもないという回答をする利用者は、子どもの年齢が大きく、ベビーカーを利用していないからではないかと考えられる。したがって、子どもの年齢とクロス分析する必要があるだろう。本調査の対象である3つの支援センターは、それぞれ地上階に位置しており、都会にあるビルの中の支援センターと比較すると、ベビーカーでの入構は比較的容易であると考えられる。

(1) 危険対策について

質問

危険なものや場所についての配慮が適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	41(71%)	16(28%)	1(2%)
B	30(91%)	2(6%)	1(3%)
C	36(71%)	15(29%)	0(0%)
全体	107(75%)	33(23%)	2(1%)

n=142

危険対策は、非常に重要な点であるが、Bセンターの利用者が「はい」と回答したのは9割を超えていたが、その他のセンターでは、7割程度と比較的低いことが明らかになった。「いいえ」と回答した利用者はほぼいないに等しいが、もう一度、危険物や危険箇所については点検・改善する必要があるだろう。

4. 人的環境について

(1) 担当者的人数について

質問

担当者的人数は適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	40(69%)	15(26%)	3(5%)
B	31(94%)	2(6%)	0(0%)
C	36(71%)	13(25%)	2(4%)
全体	107(75%)	30(21%)	5(4%)

n=142

Aセンターは、専属の担当者が3名、BセンターとCセンターでは各1名の担当者がいる。しかし、Bセンターを除き、担当者の人数を適切だと考える利用者は、7割程度と高くない。これは、単に担当者の数とサービス提供の内容が比例しないことを意味しているようである。活動の内容の満足度との関係を見る必要があるだろう。

(2) 子どもへの関心・気配りについて

質問

担当者の子どもへの関心・気配りは適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44(76%)	14(24%)	0(0%)
B	32(97%)	1(3%)	0(0%)
C	44(86%)	7(14%)	0(0%)
全体	120(85%)	22(15%)	0(0%)

n=142

担当者の子どもへの関心ならびに気の配り方については、適切ではないとする利用者は皆無であり、ほぼ適切であるとらえている様子が伺える。「どちらでもない」と回答した利用者は、他の支援センターとの重複利用者ではなく、他のセンターの状況と比較して検討していないことによるのではないかと考えられる。

(3) 担当者の子どもの年齢・発達に応じた働きかけについて

質問

担当者は年齢や発達に応じた働きかけをしている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44(76%)	13(22%)	1(2%)
B	30(91%)	3(9%)	0(0%)
C	46(90%)	5(10%)	0(0%)
全体	120(84%)	21(15%)	1(1%)

n=142

担当者は年齢や発達に応じた働きかけをしているかという問いに関しても、適切ではないとする利用者は皆無であり、ほぼ適切であるとらえている様子が伺える。「どちらでもない」と回答した利用者は、他の支援センターとの重複利用者ではなく、他のセンターの状況と比較して検討していないことによるのではないかと考えられる。

(4) 担当者の個々の子どもに応じた働きかけについて

質問

担当者は個々の子どもに応じた働きかけを心がけている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	43(74%)	15(26%)	0(0%)
B	28(85%)	5(15%)	0(0%)
C	43(84%)	8(16%)	0(0%)
全体	114(80%)	28(20%)	0(0%)

n=142

担当者は個々の子どもに応じた働きかけを心がけているかという設問に対しては、どのセンターも、8割前半までと、それほど適切と感じている回答者が多くなかった。これは、支援センターという性質上、特に在園児と比較して担当者の関わる時間が圧倒的に短く、利用者について個別に配慮することもそれだけ困難であることによるのではないかと考えられる。そしてその状況をより困難にしているのは、やはり一回の支援活動において多人数を相手にしていることにあるのではないだろうか。

(5) 担当者の服装や身なりについて

質問

担当者の服装・身なりは子育て支援にかかわるものとしてふさわしい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	46(79%)	12(21%)	0(0%)
B	33(100%)	0(0%)	0(0%)
C	47(92%)	4(8%)	0(0%)
全体	126(89%)	16(11%)	0(0%)

n=142

担当者の服装・身なりは子育て支援にかかわるものとしてふさわしいかという問いに対して、適切ではないとする利用者は皆無であり、ほぼ適切であるとらえている様子が伺える。どのセンターでも担当者は、活動のしやすい服装にエプロンを着用している。

(6) 担当者の子どもにとっての親しみやすさについて

質問

担当者は子どもにとって親しみやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	45(78%)	13(22%)	0(0%)
B	32(97%)	1(3%)	0(0%)
C	46(90%)	5(10%)	0(0%)
全体	123(87%)	19(13%)	0(0%)

n=142

担当者は子どもにとって親しみやすいかという問いについては、「はい」と回答する利用者がほぼ9割を占めていたことから、どの園とも適切な保育者をセンター担当にすえていることが分かる。事実各センターの担当者は、ベテラン保育者が任用されている。

(7) 担当者の親しみやすさについて

質問

担当者はあなたにとって親しみやすい

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	43(74%)	15(26%)	0(0%)
B	31(94%)	2(6%)	0(0%)
C	48(94%)	3(6%)	0(0%)
全体	122(86%)	20(14%)	0(0%)

n=142

担当者が保護者にとって親しみやすいかという問いについては、BセンターならびにCセンターの担当者は94パーセントの利用者が親しみやすいとしていた。しかし、Aセンターの利用者は積極的に親しみやすいと感じている割合は、74パーセントと比較的低かった。これは、Aセンターの担当者は複数人からなり、それぞれの個性や特徴が異なることから示された結果であると推察される。

(8) 利用者への対応姿勢について

質問

担当者と職員間で子どもやあなたへの対応姿勢に一貫性がある

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	45 (78%)	13 (22%)	0 (0%)
B	27 (82%)	6 (18%)	0 (0%)
C	37 (73%)	14 (27%)	0 (0%)
全体	109 (77%)	33 (23%)	0 (0%)

n=142

担当者・職員間で子どもやあなたへの対応姿勢に一貫性があるかという問いに対しては、「はい」と回答する利用者は8割にとどまり、「どちらでもない」とする回答が少なくなかった。この設問は、支援センター担当者とその他の保育園職員(園長なども含む)との間で意思疎通が図られているかをたずねた質問であるが、そのような職員間で連携して対応が必要だったケースがそれほどないため、「どちらでもない」という回答が割りに多く見られたのであろう。

(9) 担当者の子ども間のトラブルへの対応について

質問

担当者の子ども間のトラブルへの対応は適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44 (76%)	14 (24%)	0 (0%)
B	28 (85%)	5 (15%)	0 (0%)
C	35 (69%)	15 (29%)	1 (2%)
全体	107 (75%)	34 (24%)	1 (1%)

n=142

担当者の子ども間のトラブルへの対応は適切であるか、という問いに対しては、どのセンターもそれほど「はい」と答える利用者は多くなかった。子ども間のトラブルは、特に年齢が大きくなるにつれて生じる事態であるが、先の設問項目にあったように、3歳以下の子どもが主たる利用者であり、また担当者は保育のベテランであり、適切に対応していることに加えて、決められたプログラムにより活動を行っているときには、そのようなトラブルがあまり生起しないことによるのであろう。

5. 支援内容について

(1) センターでの一日のスケジュールについて

質問

センターでの一日のスケジュールは適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44 (76%)	14 (24%)	0 (0%)
B	29 (88%)	4 (12%)	0 (0%)
C	43 (84%)	8 (16%)	0 (0%)
全体	116 (82%)	26 (18%)	0 (0%)

n=142

A、B、Cすべてにおいて「はい」が約8割を占めており、また、「いいえ」という回答はみられないことから、全体的にセンターでのスケジュールは適切であると利用者は認識している。ただし、今回の調査対象には、センターの重複利用者を多く含むことから、比較的な視点を利用者は有しており、それが「どちらでもない」という回答にさせたものと考えられる。

(2) 補食について

質問

おやつは質・量ともに適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	36 (62%)	16 (28%)	6 (10%)
B	26 (79%)	6 (18%)	1 (3%)
C	35 (69%)	14 (27%)	2 (4%)
全体	97 (68%)	36 (25%)	9 (6%)

n=142

B、Cについては、「はい」が大多数をしめており、おやつは質・量ともにほぼ適切であると思われる。一方、Aについては「はい」が6割を占めてはいるが、「いいえ」も1割ほどみられることから、適切でないと感じている利用者もいると思われる。このことについては、具体的に不適切である内容を調査し改善する必要があるだろう。

(3) 身体活動について

質問

身体活動が十分にできる内容である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	37(64%)	17(29%)	3(5%)
B	27(82%)	6(18%)	0(0%)
C	41(80%)	9(18%)	1(2%)
全体	105(74%)	32(23%)	4(3%)

n=142

Bセンター、Cセンターにおいては「はい」が8割を占めており、身体活動が十分にできる内容であると思われる。Aセンターにおいては「はい」は6割とBセンター、Cセンターに比べて少ない。このことからAセンターにおいては身体活動が十分にできていないということが考えられる。実際には、どのセンターも、在園児と園庭を共有しており、外遊びができないわけではないが、プログラムの内容として身体活動そのものをそれほど意識して行っていないためと思われる。

(4) 年齢・発達のおもしろさについて

質問

年齢・発達にふさわしい活動である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	40(69%)	18(31%)	0(0%)
B	26(79%)	7(21%)	0(0%)
C	43(84%)	8(16%)	0(0%)
全体	109(77%)	33(23%)	0(0%)

n=142

B、Cについては、「はい」が8割をしめており、年齢・発達にふさわしい活動が行われていると考えられる。Aセンターにおいては、「はい」は7割とBセンター、Cセンターに比べて少ない。したがって、Aセンターは年齢・

発達にふさわしい活動という点においては、改善すべき点があると思われる。これは、提供するサービス内容によって生じた差ではないかと考えられる。

(5) 集団遊び・他児とのかかわりについて

質問

集団遊び・他児とのかかわりに配慮されている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	33(57%)	25(43%)	0(0%)
B	19(58%)	14(42%)	0(0%)
C	37(73%)	14(27%)	0(0%)
全体	89(67%)	53(33%)	0(0%)

n=142

Aセンター、Bセンターでは「はい」と回答した利用者が約6割であるのに比べて、Cセンターでは「はい」と回答した利用者は約7割である。このことから、Cセンターでは集団遊び・他児とのかかわりへの配慮が他センターと比べて特徴的であると考えられる。

(6) 子どもの支援センター利用への期待について

質問

次回利用を子どもが楽しみにしている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	45(78%)	13(22%)	0(0%)
B	30(91%)	3(9%)	0(0%)
C	41(80%)	10(20%)	0(0%)
全体	116(82%)	26(18%)	0(0%)

n=142

Aセンター、Bセンター、Cセンターすべてにおいて、「はい」という回答は約8割を超えており、特にBセンターでは「はい」が9割を超えている。このことから、支援センターを利用することが子どもにとって楽しみとなっていることが分かる。

(7)親の支援センター利用への期待について

質問

次回利用を親が楽しみにしている

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44(76%)	14(24%)	0(0%)
B	26(79%)	7(21%)	0(0%)
C	44(86%)	7(14%)	0(0%)
全体	114(80%)	28(20%)	0(0%)

n=142

Aセンター、Bセンターにおいては「どちらともいえない」という回答も約2割と多くみられるものの、全体的に、「はい」と回答した利用者は約8割である。このことから、支援センターの次回利用を楽しみにしている親が多いということが分かる。

(8)親同士のコミュニケーションについて

質問

親同士のコミュニケーションができる環境・内容である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	31(53%)	25(43%)	2(3%)
B	25(76%)	8(24%)	0(0%)
C	34(67%)	16(31%)	1(2%)
全体	90(63%)	49(35%)	3(2%)

n=142

Bセンター、Cセンターにおいては「はい」と回答した利用者が約7割なのに対して、Aセンターでは5割と少ない。このことから、Aセンターにおいては親子同士のコミュニケーションができる環境・内容に改善すべき点があると思われる。これは、Aセンターが、より親子での活動を重視しており、親同士のコミュニケーションをとる時間的余裕が参加活動の中でそれほどないことによるのではないかと考えられる。

6. お子さんについて

(1) 子どもの生活習慣について

質問

子どもは生活習慣(手洗い、トイレなど)が身に付いた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	16(28%)	36(62%)	6(10%)
B	17(52%)	13(39%)	3(9%)
C	21(41%)	24(47%)	6(12%)
全体	54(38%)	73(51%)	15(11%)

n=142

Aセンターにおいては「はい」は約3割、Bセンターでは約5割、Cセンターでは約4割という結果が得られた。それぞれのセンターについて「いいえ」も約1割ほどみられる。このことから、全体的にみて、支援センターを利用することによって子どもに生活習慣が身に付くことは少ないと思われる。

(2) 子どものやる気や意欲について

質問

子どもはやる気・意欲が育った

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	30(52%)	27(47%)	1(2%)
B	17(52%)	16(48%)	0(0%)
C	33(65%)	18(35%)	0(0%)
全体	80(56%)	61(43%)	1(1%)

n=142

Aセンター、Bセンターにくらべて、Cセンターにおいて「はい」という回答が多く見られる。このことからCセンターにおいてはより、子どものやる気・意欲が育っていると利用者は考えており、そうした子どものやる気や意欲を引き出す活動内容があることが特徴であると考えられる。しかし、「どちらでもない」という回答をした利用者は半数程度であり、支援センターを利用することで、子どものやる気・意欲が育つことには直接的にそれほど影響がないものと考えられる。

(3)子どもの社会性について

質問

子どもは他児や担当者とのかかわりの中で社会性が身に付いた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	20(34%)	38(66%)	0(0%)
B	17(52%)	16(48%)	0(0%)
C	35(69%)	16(31%)	0(0%)
全体	72(51%)	70(49%)	0(0%)

n=142

Cセンターにおいては「はい」と回答した利用者は約7割と多くみられる。それに比べて、Bセンターでは「はい」と回答した利用者は約5割、Aセンターでは約3割である。このことから、Cセンターでは、子どもが他児や担当者とのかかわりの中で社会性を身に付けることのできる取り組みが行われていると思われる。

(4)子どもの健康について

質問

子どもの健康増進につながった

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	16(28%)	40(69%)	2(3%)
B	12(36%)	21(64%)	0(0%)
C	26(51%)	25(49%)	0(0%)
全体	54(38%)	86(61%)	2(1%)

n=142

Cセンターでは「はい」と回答した利用者が約5割みられた。Aセンター、Bセンターにおいては「はい」と回答した利用者は約3割であった。このことから、Cセンターでは子どもの健康増進につながる活動が行われているような意図的活動がないように組み込まれていると思われる。しかし、全体的にみて「どちらでもない」とする回答の利用者が6割以上であるため、それほど支援センターの利用自体が子どもの健康増進につながるものではないようである。

(5)子どもの友達づくりについて

質問

子どもは同年齢の友達が増えた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	18(31%)	32(55%)	8(14%)
B	16(48%)	15(45%)	2(6%)
C	19(37%)	29(57%)	3(6%)
全体	53(37%)	76(54%)	13(9%)

n=142

どのセンターにおいても「はい」と回答した利用者はそれほど多くはない。このことから、支援センターを利用することで子どもにとって同年齢の友達が増えることは少ないと示唆される。それはつまり、支援センターを利用できる回数が非常に少なく、友達にいたるまで接触回数が多いことによるものと考えられる。

(6)家庭での遊びについて

質問

家庭での遊びかたが変わった

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	18(31%)	35(60%)	5(9%)
B	6(18%)	23(70%)	4(12%)
C	9(18%)	39(76%)	3(6%)
全体	33(23%)	97(68%)	12(8%)

n=142

どのセンターにおいても「はい」と回答した利用者は少ない。また、「いいえ」と回答した利用者も約1割みられる。このことから、支援センターを利用することによって家庭での遊び方が変わるかということには、それほど影響はないものと考えられる。

7. お母さんについて

(1) 育児負担の軽減について

質問

育児負担が軽減された

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	30(52%)	26(45%)	2(3%)
B	18(55%)	13(39%)	2(6%)
C	25(49%)	26(51%)	0(0%)
全体	73(51%)	65(46%)	4(3%)

n=142

支援センターを利用することで、育児負担が軽減されたという利用者は、ほぼ半数ほどでしかなかった。支援センターを利用することの目的は、育児負担の軽減ではないことであるのであろう。どのセンターでも、親子でおこなう活動が含まれていることから、利用できる回数が少ないこととあいまって、そうそう育児負担軽減にはつながらないのであろう。

(2) 育児方法への影響について

質問

育児の方法について知識が増えた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	50(86%)	8(14%)	0(0%)
B	17(52%)	13(39%)	3(9%)
C	30(59%)	19(37%)	2(4%)
全体	97(68%)	40(28%)	5(4%)

n=142

育児の方法について知識が増えたとする利用者は、全体で見ても、7割程度とそれほど高くなかった。しかし、Aセンターは86パーセントと、他センターと比べて高い。これは、Aセンターでは、活動の締めくくりに、センター主任もしくは園長が、子育てに関する話を全体の前で行うことに加えて、講師を迎えて講演会を実施することによると思われる。

(3)心身のリフレッシュについて

質問

心身共にリフレッシュすることができた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	47(81%)	10(17%)	1(2%)
B	27(82%)	6(18%)	0(0%)
C	44(86%)	7(14%)	0(0%)
全体	118(83%)	23(16%)	1(1%)

n=142

支援センターを利用することで、親が心身ともにリフレッシュすることができるかという問いでは、8割以上の利用者が「はい」と回答しており、親のリフレッシュに効果的であることが示唆された。

(4)親の友達について

質問

あなたの友達が増えた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	23(40%)	24(41%)	11(19%)
B	20(61%)	10(30%)	3(9%)
C	24(47%)	23(45%)	3(6%)
全体	67(47%)	57(40%)	17(12%)

n=142

親どうして友人が増えるかという問いに対しては、「はい」と回答した利用者は5割以下にとどまっており、それほど友人作りの場としては機能していないことが明らかになった。これは、どのセンターでも、親子でおこなう活動が含まれていること、そして利用できる回数が少なく、親同士が顔を合わせる回数がそれほどでもないことが影響しているのであろう。

(5) 参加による幼稚園・保育園の入園の判断への影響について

質問

センターへの参加は幼稚園・保育園の入園への判断に影響を与える

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	28 (48%)	25 (43%)	5 (9%)
B	15 (45%)	15 (45%)	3 (9%)
C	28 (55%)	17 (33%)	6 (12%)
全体	71 (50%)	57 (40%)	14 (10%)

n=142

センターへの参加は幼稚園・保育園の入園への判断に影響を与えるかをたずねたところ、支援センターを利用することは、将来の子どもへの入園の判断材料としてはそれほど影響していないことが明らかになった。特に、支援センターを利用している利用者層は、専業主婦が多く、したがって、もし園を利用するにしても幼稚園であるため、保育所に併設されている支援センターを見て、入園の判断材料にはならないのであろう。

(6) 育児不安の軽減について

質問

育児不安が軽減された

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	44 (76%)	14 (24%)	0 (0%)
B	21 (64%)	10 (30%)	2 (6%)
C	23 (45%)	27 (53%)	1 (2%)
全体	88 (62%)	51 (36%)	3 (2%)

n=142

育児不安が軽減されたかをたずねたところ、各センターで、「はい」と回答する利用者に差が見られた。Aセンターは、特に育児相談に力を入れており、電話相談も数多くこなしている。このあたりがデータとして差がでた理由であろう。一般に、支援センターを利用する母親は、育児の不安やストレスを、センター利用することで解消するという結果が得られており(水内・林・七木田, 2000)、その点からすれば、BセンターならびにCセンターでは、利用者の育児不安の軽減に寄与するような担当者のかかわりが今後期待される。

(7) 夫婦間での子育てに関する話題について

質問

夫婦間で子育てに関する話題が増えた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	28(48%)	27(47%)	3(5%)
B	12(36%)	16(48%)	5(15%)
C	22(43%)	23(45%)	6(12%)
全体	62(44%)	66(46%)	14(10%)

n=142

支援センターを利用することは、夫婦間での子育てに関する話題の提起にはあまり寄与しないことが示唆された。実際、対象の3つのセンターでは、父親参加は皆無であり、こうしたことから、父親にとって、支援センターの認知度は低いものであると推察される。

8. 子育て相談について

(1) 相談機関としての雰囲気について

質問

相談しやすい雰囲気である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	51(88%)	6(10%)	1(2%)
B	24(73%)	9(27%)	0(0%)
C	31(61%)	19(37%)	1(2%)
全体	106(75%)	34(24%)	2(1%)

n=142

子育て支援センターの機能として、育児相談業務があるが、この方面での力の入れようが各センターで異なることが本設問より明らかにされた。先述したように、Aセンターは、特に育児相談に力を入れており、電話相談も数多くこなしている。このあたりがデータとして差がでた理由であろう。ただし、支援センターを利用できるという母親は、誰にも相談できずに困って家からも出られず悩む親に比べれば、それほど悩みが深刻ではないのではないだろうか。開かれた相談機関として、雰囲気作りは重要であろう。

(2) 相談による悩みの解決について

質問

相談して悩みは解決できた

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	29(50%)	28(48%)	1(2%)
B	12(36%)	21(64%)	0(0%)
C	13(25%)	37(73%)	1(2%)
全体	54(38%)	86(61%)	2(1%)

n=142

支援センターで育児に関する相談をすることで、悩みが解決できたかという問いに対しては、Aセンターが他のセンターよりも「はい」という回答が多かった。これは、先に述べているように、相談機関としての位置づけが明確になされていることによるのであろう。なお、全体的に「どちらでもない」とする利用者が多かったのは、相談することがなかったため、本設問に対して回答の使用がなかったことによると考えられる。

(3) プライバシーに対する配慮について

質問

プライバシーに対する配慮は適切である

結果と考察

	はい	どちらでもない	いいえ
A	42(72%)	16(28%)	0(0%)
B	16(48%)	17(52%)	0(0%)
C	25(49%)	26(51%)	0(0%)
全体	83(58%)	59(42%)	0(0%)

n=142

プライバシーに対する配慮が適切ではないとする回答はまったく見られなかったことから、どのセンターでも、守秘義務は遂行されている様子が伺える。その中でもAセンターは先に見たようにとりわけ相談しやすさを持っていることから、プライバシーにも配慮が十分になされているのであろう。

(4) 相談後のフォローアップについて